

調布駅前クリーン作戦を実施しました

8月26日、調布駅前公園で「調布駅前クリーン作戦」を午前8時30分から実施しました。

このクリーン作戦は、市民参加により、調布市の玄関口である調布駅周辺の清掃活動を行うことで、地域の交流や活性化を図るとともに、今後ともきれいな親しまれる場所とすることを目指し新たに実施したものです。

当日は、天候にも恵まれ、合計28団体・122人の参加者が、調布駅前の清掃を行いました。また、今年はスポーツ祭東京2013（東京国体）が開催されることもあり、マスコットキャラクターの「ゆりーと」や、「ゆりーとサポーターズ」の方々も応援に駆けつけてくれました。

夏休み期間中、多摩川自然情報館にたくさんの方々に来館いただきました

夏の多摩川自然情報館には、たくさんのいきものが展示され、夏は1年で一番にぎわう季節です。

今年の夏休みも、7月20日の「夏休みイベント」をはじめとしたイベントや施設見学に、親子や友達同士でたくさんの来場がありました。とくに、8月の月替わりプログラム「多摩川の昆虫で標本作り」は小学生たちに大人気で、毎日子どもたちが持ち寄った昆虫などで標本作りを楽しみながら昆虫の体のつくりについて学びました。

開館時間／午前9時～午後5時

休館日／年末年始（12月29日～1月3日）

◇土日祝日も開館しています

所在地／調布市染地3-8-26

8月下旬から、多摩川自然情報館の敷地内のポールに、“アユのぼり”を設置しました

近年たくさんのアユが多摩川を遡上して、清流“多摩川”が復活しつつあります。開館日には、このきれいな多摩川のシンボルであるアユ（のぼり）が、皆さんの来館をお待ちしています。



※多摩川自然情報館は定期清掃により平成25年11月22日（金）を臨時休館します。

省エネ！実践していますか

暑い夏を乗り切り、皆さんの節電の努力により、今夏も不測の停電等は発生しませんでした。引き続き、無理のない範囲で節電を始めとする省エネの取組の実践をお願いします。

特に、秋から冬に向けては、ガスの使用量が増加します。

調布市域の年間家庭用ガス使用量は平成24年度36,258,770m³で、これを市民一人当たりで換算すると、おおよそ163m³となっています。

平成24年度は前年度と比較し、増加しました。

節電の取組同様、ガスの使用量についても見直してみませんか。

【市民一人当たりのガス使用量】

年度	平成20	21	22	23	24
単位 m ³ /年	165	162	161	162	163

【ガスの省エネ例】

- ・煮物をする時は落としぶたをする
 - ・コンロでは、炎が鍋底に合った火かげんにする
 - ・お風呂は間隔をあけずに続けて入る
 - ・使わないときはお風呂のフタを閉める
 - ・こまめにシャワーを止める
- など

省エネ関連製品の寄附がありました

8月29日、「地元への利益還元」として、株式会社ノジマ様から、調布市に対して省エネ関連製品の寄附がありました。

同社は、店舗がある自治体への寄附を実施していて、調布市小島町の商業施設に店舗があることから、例年寄附をいただいでいて、今年度は太陽光で充電可能なコン

パクトソーラーライトや充電式のポータブルAC電源を寄附いただきました。

ご寄附いただいた物品は、省エネのほかいざという時の備えとして活用させていただきます。



ちょうふ環境にゆ〜す



未来へつなぐ調布の環境

●発行：調布市環境部環境政策課

●連絡先：電話：042-481-7086（直通） F A X：042-481-7550

メールアドレス：kanky@w2.city.chofu.tokyo.jp

※市ホームページでも、環境情報を提供しています（トップページ左下からリンクしています）。

2013年10月
第17号

刊行物登録番号
2013-134

調布市いきものフォトコンテスト2013 ～感じよう！生物多様性～ 作品募集

調布市では、市内の自然環境の再発見と、生物多様性への理解を深める目的で、毎年調布市いきものフォトコンテストを開催しています。

市内に生息する野生生物が主体の写真を集め、応募作品を調布市多摩川自然情報館で展示し、応募作品の中から投票・専門家の評価により入賞作品を決めます。

また、応募作品の撮影地点より、「2013年調布市いきもの分布情報図」を作成し、市内の生物多様性について応募作品とともに調布市多摩川自然情報館で展示します。



募集作品

【多摩川部門】

調布市内の多摩川に生息する野生生物を主体とした写真（植物、鳥、昆虫、魚など）

【市内部門】

調布市内の多摩川以外に生息する野生生物を主体とした写真（植物、鳥、昆虫、魚など）

【スマフォ部門】

スマートフォン、携帯電話及び携帯ゲーム機のカメラ機能並びにトイカメラ等で撮影した、調布市全域に生息する野生生物を主体とした写真（植物、鳥、昆虫、魚など）。

応募条件

平成24年12月以降に調布市内で応募者本人によって撮影された写真で、未発表かつ応募者に全ての権利（著作権）があるもの。（1人につき2点まで）

応募規格

【多摩川部門・市内部門】

- ・A4サイズまたは6切サイズ

【スマフォ部門】

- ・L判（127mm×89mm）

※各部門ともカラー、モノクロいずれも可。

電子データ（2MBまで）をご持参いただければ多摩川自然情報館で土・日、祝日に印刷可能です。

表彰内容

【多摩川部門・市内部門】

- ・多摩川自然情報館大賞（各部門1名）
図書券3,000円分、賞状を贈呈
- ・多摩川自然情報館賞（各部門2名）
図書券1,000円分、賞状を贈呈
- ・特別賞（各部門5名）
図書券500円分、賞状を贈呈

【スマフォ部門】

- ・作品賞（10名）及びコメント賞（10名）
応募作品で作成したステッカーを贈呈

※入賞作品は来館者の投票及び専門家による評価で決定します。平成25年12月22日（日）～平成26年2月22日（土）まで応募作品を多摩川自然情報館内に展示し、来館者に投票（1人2票まで）していただきます。投票用紙は多摩川自然情報館で配布します。（応募された作品が募集作品の要件を満たしていない場合は審査対象外）

募集期間

平成25年11月30日（土）（消印有効）まで
応募方法や作品の取り扱いなど、そのほかの詳細は、市のホームページまたは、環境政策課、多摩川自然情報館で配布している募集要項（応募票つき）でご確認ください。

いきものフォトコンテスト

調布こどもエコクラブの活動

市では、市内の小中学生を対象に毎年4月に調布こどもエコクラブの会員を募集しています。今年度は川の水質をテーマに活動しており、42人の子どもたちが会員として登録しています。

第1回 水質検査・水辺ガサガサ体験

5月18日に、日活撮影所近くの多摩川河川敷で、水質検査・水辺ガサガサ（水辺の生きもの観察）体験活動を実施し、当日は、18人の子どもたちとその保護者、計31人の方々に参加していただきました。

まず水質検査の体験として、「透視度計」を用いて川の濁りを計測する体験を行いました。測定値は約50cmで、少し濁っているという結果になりました。

第2回 水質検査・水辺ガサガサ体験

7月6日には、多摩川原橋からやや下流の多摩川河川敷で、12人の子どもたちとその保護者、計16人が体験活動を実施しました。

今回の体験は、「バックテスト」を用いての水質検査も行いました。

水辺ガサガサ（水辺の生きもの観察）では、前回と同様に「指標種」に着目して体験を行いました。

見つかった指標種は、指標となる水生昆虫（幼虫類）が成虫になっている時期ということもあり、「ややきれいな水」が1種だけでした。



第2回活動の様子

水辺ガサガサでは、川の水質を示す「指標種」と呼ばれる水辺の生きものに着目して体験を行いました。見つかった指標種は「きれいな水」を示す種が3種、「ややきれいな水」が2種、「きたない水」が2種でした。



第1回活動の様子

第3回 多摩川源流体験ツアー

7月30日には、多摩川源流の山梨県小菅村で、小学3年生以上を対象にした「多摩川源流体験ツアー」を行いました。

14人の子どもたちが参加し、小菅村の講師の解説を受けながら多摩川下流の沢歩き、川への飛び込みなど冷たい源流の川を満喫していました。

また「指標種」観察と「バックテスト」を実施し、調布の川よりもきれいな水が流れていることを確認しました。



第3回活動の様子



箱メガネで魚を観察

環境モニター活動

環境モニターは、多摩川の植物を中心とした継続観察と記録によって調布の自然を見守り、自然環境の保全に役立ってほしいという活動です。

今年度は、これまでの環境モニター活動の中で観察された、調布の多摩川を代表すると考えられる植物の一覧などを整理して、ホームページなどで公開できるように活動しています。

第1回 講義：多摩川の自然、観察会

5月11日に、多摩川自然情報館で調布の自然についての講義を行い、その後定期活動を行っている日活撮影所近くの多摩川河川敷で、観察会を行いました。

講義は環境モニターサポーターの方から、「武蔵野」の自然の変遷や、魚とりをはじめとする調布の環境を活かした昔の遊びなど、幅広いお話を聞くことが出来ました。

観察会では小雨が降っていたため、記録は取りませんでした。講師から本来の多摩川の河原の植物などのお話を聞きながら、観察を行いました。



観察したハナウド



観察したキバナヤセウツボ



活動の様子

調布水辺の楽校の活動

開校式・Gasa Gasa in 多摩川

5月12日、多摩川河川敷で、多摩川流域7小学校の児童と保護者52人が参加し、今年度の水辺の楽校の開校式が、教員・地域の環境学習ボランティアの運営により行われました。

前日の雨で増水が心配されましたが、流量に大きな影響はなく、開会式後は、川の安全講習と、多摩川にどのような生き物がいるか観察をする「水辺のガサガサ」を行い、たくさん生きものを確認しました。



第1回活動の様子

○確認した生きもの

ドジョウ、シマドジョウ、メダカ、オイカワ、ウグイ、ヨシノボリ、フナ、ミナミヌマエビ、スジエビ、モクスカニ、コイ科の稚魚、フロリダマミズコエビ、コオニヤンマ（ヤゴ）、サナエトンボ（ヤゴ）、カワトンボ（ヤゴ）、フタオカゲロウ、サホコカゲロウ、ヒゲナガトビケラ、ミズムシ、ヒル、アメンボ、オタマジャクシ、ブユ（幼虫）、ヒラマキミズマイマイ

アドベンチャー in 多摩川 2013

8月17日、多摩川河川敷で、今年度第2回の水辺の楽校「アドベンチャー in 多摩川 2013」を実施しました。

当日は多摩川流域7小学校の児童と保護者26人が参加し、始めに浅瀬で水辺のガサガサ（水辺の生き物観察）を行いました。

その後、ライフジャケットを着用しての川流れの体験やゴムボートでの川下りを体験しました。



第2回活動の様子



第2回活動の様子

○確認した生きもの

アブラハヤ、モツゴ、コイ、フナ、シマドジョウ、ヤゴ（ギンヤンマ）、スジエビ、ヌマエビ、ライギョ

雑木林ボランティア講座（雑木林塾）の活動

市では、昭和30年ごろまで生活と農業に深くかかわってきた里山の雑木林の現状を知り、市内に残る樹林の維持管理に役立つ知識と技能を身につけることを目的に毎年、雑木林塾を実施しています。

この雑木林塾は、ちょうふ環境市民会議のメンバーが企画・運営しています。

今年度は、初級講座である「雑木林ボランティア講座」として前期3回と後期2回に分けて実施します。また、中級講座も1回実施することとし、初級前期、初級後期、中級それぞれ会員を募集し、7月までに初級前期の講座を実施しました。

初級前期第1回 雑木林の現状と春の里山観察

初級前期講座の第1回は市民プラザあくろすで講義を行った後、野川から佐須地域の用水路沿いを、植物や農地を観察しながら歩き、深大寺自然広場の雑木林を見学しました。当日は天気もよく、参加者からは、「調布の知らない側面を知ることができた」などの感想をいただきました。



第1回活動の様子

初級前期第2回 安全なボランティア活動のための知恵

初級前期講座の第2回は、雑木林での作業に必要な安全管理について講義を行い、雑木林活動に潜む危険性などについて学習しました。その後、カニ山（深大寺自然

広場）で、作業に必要な道具の使い方を学習し、実際に草刈り作業などを行いました。



第2回活動の様子

初級前期第3回 雑木林はどう育て維持されてきたか

初級前期講座の第3回は、植物から見える調布の雑木林についての講義を行い、樹林の構成とその見方などについて学習しました。その後、入間1丁目樹林での植生調査の作業を体験しました。



第3回活動の様子